

# 脱原発社会を実現する市民のネットワーク

## 「未来につなげる・東海ネット」結成 「これまでとこれから」

3月11日に発生した東日本大震災、その後引き起こされた福島第一原子力発電所の「原発震災」は、いままでも原発の問題に対してほぼ活動をしてこなかった私にも痛烈な怒りと反省、悲しみの感情を湧き起こさせました。その後、この地域では様々な団体や個人が緊急署名、中部電力への要望書、パレードやデモ、講演会を企画し「何かしなければならぬ」と立ち上がり、私も高校生が立ち上げた「stop浜岡」パレードに参加した一人です。

私たち「未来につなげる・東海ネット」は、そうした状況のなか、不戦ネットの山本さん、チェルノブイリ救援・中部の戸村さん、フィリピン情報センター・ナゴヤの西井さん、そして、私、名古屋NG



東海ネット結成時の記者会見

○センターのスタッフをしている門田が集まった席で、脱原発・福島支援などに取り組むネットワークはないか、

と話し合ったところから始まりました。その後、核のごみキャンペーン・中部の安楽さん、元愛知県環境調査センター職員で放射線などに詳しい大沼淳一さんが加わり、本格的に動き始めました。三重や岐阜で活動している個人、団体に声をかけ、5月14日に第1回の会合を持ち、2週間に1度の急ピッチで話し合いを進め、活動の方針や内容、運営体制を決めていきました。そして、とうとう7月30日に結成集会を開き、「脱原発社会を実現する市民のネットワーク」として150人以上の参加者の方々と共に発足を迎えます。

私たちが話し合った活動の目標は以下の6つです。

### ★私たちの活動目標

1. 福島原発震災から派生する問題に取り組む（食べ物、土壌汚染、海洋汚染）
  2. 福島原発事故が提起した課題に取り組む団体・個人の情報交換とネットワーク
  3. 浜岡原発を廃炉にするための行動
  4. 原発なしの安心社会を目指す取り組み。
  5. 新しいエネルギー政策のあり方の学習と提起。
  6. 社会や経済のあり方、暮らし方の新しい価値観の創造。
- これらの目標のもと、発足から4ヶ月、様々な活動を行ってきました。

### ◆Cラボ（市民放射能測定センター）

まず、原発震災から派生し私たちの生活にとって避けられない食品の放射能汚染の問題です。放射線被曝を出来る限り小さくするためには、食品の放射性含有量の測定と公表をし、その汚染の程度を知らなくてはなりません。市民が気軽に測定できるように料金も低く設定しました。そして、現在国が定めている高すぎる放射能の暫定基準値に対抗する自主基準を設定し、その数値を元に現状の食品摂取を考えるとともに、その数値以上の汚染食品の流通に反対しています。9月のCラボ開設以来、測定の申込が殺到し、現在2週間待ちという状態ですが、測定機を置いている「名古屋生活クラブ」また市民ボランティアの皆さんの活躍によって、次々に測定した結果が公表されています。今後は、国や自治体に測定体制の早急な整備を求め、また、放射能汚染のあった生産者の支援活動など行っていきます。測定結果はHPをご覧ください。

<http://tokainet.wordpress.com/hsc/re/>

### ◆中電対話デー

中部電力と定期的に対話することで、市民の意見を直接届けることを目的に、少しでも中部電力を脱原発企業へと押し進めることができたらと考えています。偶数月の第一月曜10時～12時、中部電力本社にて誰でも参加可能な形で行っています。今後は、市民と中部電力が議論できる公開討論会の開催

を目指しています。

#### ◆ 連続講座「放射能・原発・エネルギーと私たち」

10月から1月まで7回の講座で、福島原発から放出されている放射能による食べ物への影響から、エネルギーの未来像までを、じっくりと学ぶ講座です。各所でセミナーや勉強会が行われていますが、いつも講師は同じ方ばかりというのが現状です。市民一人ひとりが学び、脱原発に向けた「市民講師」を養成することを目的に、講座の後半は参加者自身が発表する回も予定しています。各回20名ほどの参加者が熱心に議論を交わしています。

#### ◆ 学習会「浜岡原発の耐震対策ほんとに大丈夫？」

現在停止している浜岡原発ですが、中部電力は運転再開に向けて、津波・耐震対策を充分に行っているかと説明しています。しかし、「その対策で問題はいいのか?」「浜岡の廃炉に向けてまず自分たちが学ぶことが重要」と考え、10月14日に開催しました。

#### ◆ 講演会「放射能汚染時代を生き抜くために〜チェルノブイリから福島へ〜」

NHKのE.T.V特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」で事故後すぐに福島で調査を行った活動が番組化され、大きな反響を呼んだ獨協医科大学（放射線衛生学）の木村真三さん、チェルノブイリ救援・中部の河田昌東さんをお呼びして、結成以来初の大規模な講演会を11月13日に行いました。

270名を越える方が参加し、福島の現状とチェルノブイリからの警鐘、現在どうそれを活かしているのかについて学びました。

#### ◆ 「2011もんじゅを廃炉へ！全国集会」バスツアーFromなや

1995年12月8日、福島県敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」がナトリウム火災事故を起こして以来、毎年この時期に現地で「もんじゅを廃炉へ！全国集会」が開かれてきました。12月3日に東海ネットとして名古屋からのバスツアーを企画しました。



万が一、福島の原発が事故を起こした際に最も影響を受けるのは東海地方です。年間250億の維持費をかけた危険でムダな「もんじゅ」に「NO」を伝えました。

#### ◆ デモ/パレードでのアピール、メーリングリストの運営協力、HPでの情報発信

今までご紹介した以外にも、2000人以上が参加して脱原発を訴えた、「9・19さよなら原発10

00万人アクション

への協力や参加、来年3月11日

の1周年へ向けた集会

への協力や参加も行っていきます。

また、今後の活動としては、福島で非難すること

ができず放射能で汚染された土地で生活せざるを得ない方々への支援を検討しています。具体的には、

チェルノブイリ原発事故の教訓を活かして、子どもたちを一定期間、放射能汚染の少ない地域へ非難させること、そのための自治体や政府への働きかけも

行っていききたいと考えています。

そして第一に「二度と原発震災を起こしてはならない、そのために原発は要らない」という想いのもと、東海地域で活動する様々な人たちをつなぎ活動していきます。

活動の予定や報告などの詳細は月に随時アップしています。ご覧ください。

<http://tokainet.wordpress.com/>

東海ネット代表 門田 一美

